

令和元年度 前期学校関係者評価書

令和元年9月

南アルプス市立白根源小学校関係者評価委員会

記載責任者 教頭 清水浩雄

【第1回 学校関係者評価委員会】

- 1 令和元年8月30日(金)
- 2 南アルプス市立白根源小学校 会議室
- 3 学校関係者評価委員

学校関係者評価委員		
前源地区連合自治会会長 塩谷 正夫	主任児童委員 矢崎 栄子	元PTA会長 浅川 久司
元PTA役員 中込 美香	元PTA役員 米山 薫	源地区連合自治会会長 深澤 秀春
源地区育成会長 小澤 順司	PTA会長 宇高 俊介	
校長 加賀美 敏	教頭 清水 浩雄	教務主任 上野 真美

4 学校提案内容

- ①自己評価（教職員）結果
- ②児童アンケート結果
- ③質疑応答

5 協議内容・意見

- 南アルプス市立白根源小学校前期自己評価書に関する考察
教職員・児童アンケートの考察／改善方策に対する検証

(1) 学校側からの前期全体評価考察

① 前期自己評価 全体評価

<p>・全体分析</p>	<p>集計結果からは、全ての項目に対して、肯定的な意見が大半を占めた。グランドデザインのもと、全教職員が一丸となって取り組んでいる結果といえる。2学期以降もグランドデザインを意識して学校教育目標の実現に向け取り組んでいきたい。</p> <p>評価について Aよくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない Eどれもあてはまらない</p>
<p>経営方針・目標・学校運営</p>	<p>1-7 全て肯定的な意見で占められている。特にNo.3「校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。」A89%、No.4「他の職員と相互理解・信頼関係を深め、教育活動にあたっている。」A94%であった。相互理解のもと組織的な運営が行えたといえる。 B評価は、No.2「マネジメントサイクル（PDCA）で、常に改善を図ろうとしている。」がA50%で、前年2回目と同様、課題が見られた。マネジメントサイクルの実践については、職員自身が取り組み策を考え、実践しているが、成果が出ているか判断するのに確信が持てていないのではないかと推測される。全職員がチーム源で協力的に取り組んでいる姿は、No.7「チーム源として、職員が共通理解のもと、指導に努めている。」A89%の評価に如実に表れている。さらに互いに情報交換をして取り組んでいきたい。</p>
<p>学習指導</p>	<p>8-11 全て肯定的な意見で占められている。 No.11「家庭との連携を図り、児童の学習習慣が確立するよう配慮している。」A83%で、昨年後期に続いて自主学习が定着してきている。家庭との連携が進んできていると考えられる。 校内研究で、「学ぶ楽しさを実感し、学び合う子どもの育成」～対話し、わかち合う授業作りを通して～の主題のもと、学習指導に当たっている。No.8「適切な児童理解に基づき、ルールとリレーションのある学級・学校づくりに努めている。」A83%と合わせ、個別指導やTTも丁寧に行われおり、その結果が出ているといえる。</p>
<p>児童理解 生徒指導</p>	<p>12-14 全て肯定的な意見で占められている。 No.13「生指・特別支援体制を通じての組織的体制から、児童特性に応じた指導方法の工夫や改善に努めている。」でA評価が前年1学期50%⇒78%と向上した。個別のケース会議、他機関の連携、観察・分析・取組の繰り返しの結果である。今後も取組を継続していきたい。 本校の良い部分として、全校児童みんなの力で基本的な生活習慣を身に付けていくことが挙げられる。無言清掃、縦割り活動を通して高学年から低学年へよい形につながっている。規範意識をみんなで高める風土が形成され、いじめ、不登校の未然防止につながっているといえる。</p>
<p>保護者 地域連携</p>	<p>15 全て肯定的な意見で占められている。 No.15「保護者・地域に対して誠実に関わり、保護者・地域及び関係機関との連携・協力体制の構築に努めている。」A評価が前年1学期55%⇒88%と向上した。学校だより、学年通信、保健・図書・給食だより、機会を逃さない家庭への連絡等が反映されていると考えられる。 農業体験や環境整備、防災等地域連携、ボランティア、保健指導への協力等、地域の方々に活動を支えていただいているありがたい。</p>

② 前期児童アンケート全体評価

<p>18項目中ほとんどが肯定的な意見（A評価+B評価）であった。職員の自己評価と同様、授業や生活面で児童が頑張っている様子が伺える。No.1「学校が楽しいか」94% No.2「授業が分かるか」94%であった。子どもたちに居場所と出番のある学校生活を提供できているといえる。一方CD回答の5.5%の児童への対策も、一人一人の声を拾いいていねいに対処していきたい。今後もさらに努力していきたい。</p> <p>C評価+D評価が10%以上の項目を課題ととらえ、あげてみると、No.7「学校ではほかの学年のお友だちと遊ぶことがありますか。」32% No.8「こまったときに話のできる友だちがいますか。」19%であり、前年度2学期よりも数値が増えている。今後2学期には、Q-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)分析による改善策や児童会縦割り活動による児童のつながり向上の取組を進めていきたい。</p> <p>前年度2学期との比較で、(A評価+B評価)がやや向上している項目は、No.3「授業中に質問や意見をいいますか。」9%向上、No.4「学校の決まりや約束が守られていますか。」と、No.5「家で家庭学習(自主学习・宿題)をしていますか。」が4%向上であった。No.3・5については、校内研究を中心とした学習指導の効果が出てきていると考えられる。2学期には研究授業の取組も始まるので、さらに成果に結び付けていきたい。また、家庭への家庭学習の説明を定期的に行い、家庭の継続した協力を呼び掛けていきたい。</p>
--

(2) 意見交換

① 児童アンケート分析について

他の項目と連携した分析（「学校は嫌いだが、友達はたくさん」のような見方）をすると、さらに、一人一人の理解が進むのではないかと。



分析にクロス集計も行って、より児童理解に努めていきたい。

② 「スマホ・ケータイ所持」について

全校だけの数値が出ているが、学年毎の様子はどうか。高学年になると、親と連絡をとる必要が出てくる。持たせた家庭では、しっかりルールを決める必要がある。



次回から、学年別のデータを出して対応する。今後スマホ・ケータイを学校に持ってくる社会情勢になることも予想できる。持ち込んだ時の保管・管理等対応できるよう備えが必要になってくる。

③ 学校グラウンドデザインについて

網羅的になりがちだが、4つの力がわかりやすく素晴らしい。何にチャレンジしていくか示して指導し、教師の力でチャレンジする力を育ててほしい。情報が多く、先に結果が見えてしまうこともあるが、それでもチャレンジしていくという力をつけてほしい。体験を通して発想力も変わってくる。



自己肯定感が低い傾向、チャレンジする強さが求められる。失敗からの学びも大切にしている。チャレンジする機会を多く設定したい。小学校段階では、全国学力・学習状況調査の分析からも、家庭の力が大きいといえる。家庭と連携して取り組んでいきたい。インターネットから手軽に情報が手に入るが、ただ鵜呑みにするのではなく、これを活用し、興味関心を持ち、「自分から学ぶ力」「粘り強くチャレンジする力」をつけていきたい。

④ 「家庭学習」について

「家庭学習をしているか」のA回答が伸びているが、学童の子どもたちも学童で宿題をしっかりとやっている。小学校くらいだと親も学習内容に対応できる。親子読書等、家庭での読書も大切。読解力もつく。読書指導も進めていくとよい。



家庭学習に関して、さらに家庭と連携して取り組んでいきたい。司書を先頭に、ブックトーク、ビブリオバトル等読書指導も力を入れている。国語辞書の活用も力を入れて取り組んでいる。語彙力の広がりが出る。

⑤「子どもの活力」について

教師と児童のアンケートをマッチングさせて、源小の良さをとらえてほしい。おとなしい子をほめるか、やんちゃで活発な方がよいか。そこには、親の満足感、地区の穏やかさなど、家庭環境や地区の環境が反映されているかもしれない。



意欲が出ればさらに伸びるので、子どもたち一人一人の特性に寄り添って、一歩踏み出す気持ちを後押ししていきたい。

⑥「防災訓練参加」について

学校から地区へ、9月1日の市内防災訓練に子供たちも参加するように呼び掛けている。家庭、地域でも働きかけてほしい。

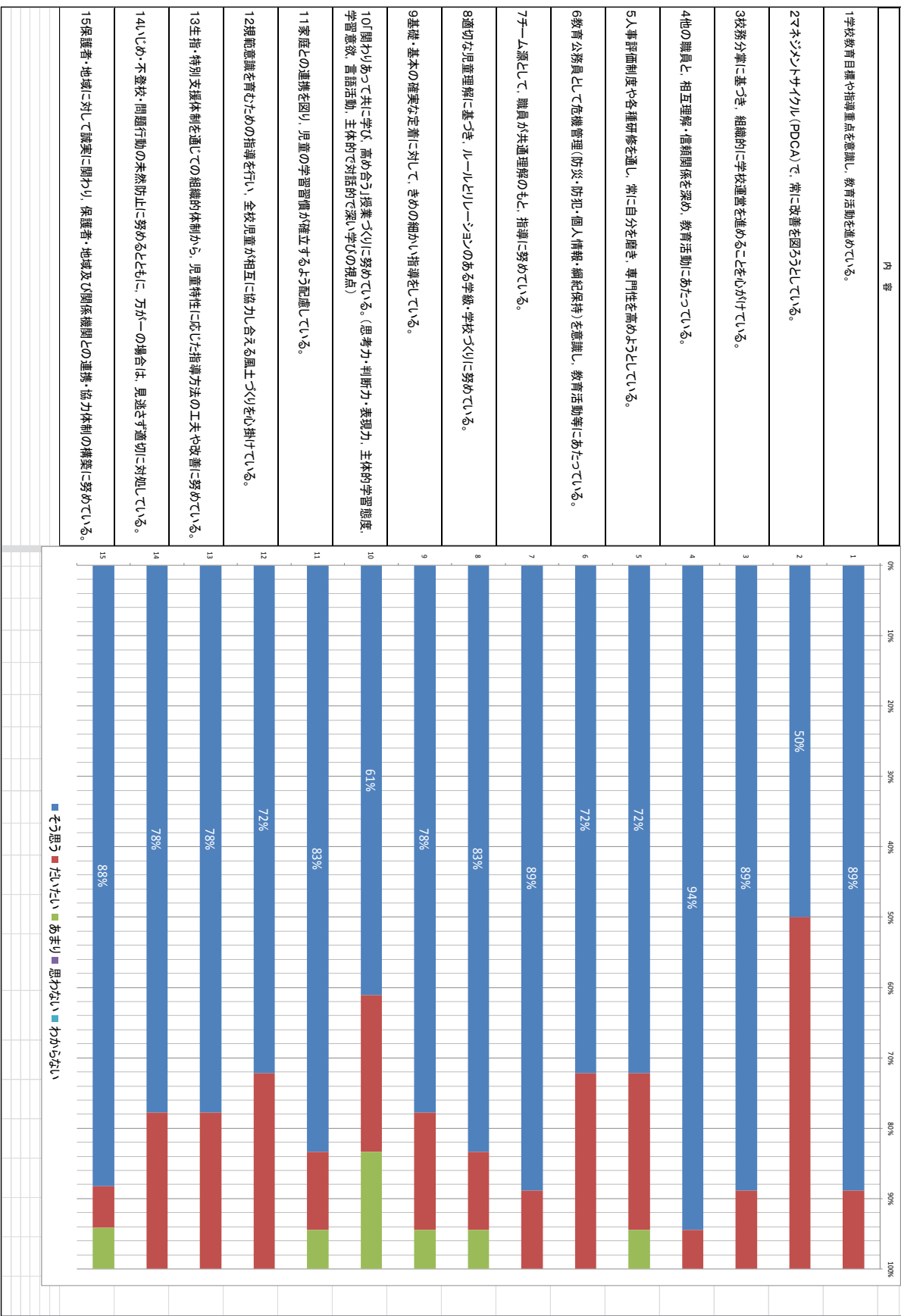


地区主体での訓練を計画したり、中学校と連携したりし、子どもの参加が定着していくように考えていきたい。

(3) 総括

学校関係者評価委員より今回も貴重なご意見をいただいた。本校職員の努力をしっかりと見て頂いていることに感謝するとともに、職員も大きな励みになるご意見をいただいた。子どもたちに寄り添い、出番と居場所のある、わかる授業、楽しい学校を目指して、今年度後半も取り組みを積み重ねていきたい。

令和元年度 前期自己評価



②児童アンケート

